

令和6年度全国科学博物館活動等助成事業実施報告

美幌博物館 学芸員 鬼丸和幸

課題名 ホタルを題材にした教育普及書の制作

交付番号 24001

標題助成事業につきまして、下記のとおり実施いたしました。

事業実施期間 令和6年4月1日～令和7年3月26日

事業主催 美幌博物館

事業実施結果 美幌博物館で推進しています自然教育活動の一環として、長年ホタル類の調査研究・自然啓蒙活動を進めてきた成果を踏まえ、一般の方々がホタル類（広く昆虫）に対して、身近な存在として興味を抱いてもらうきっかけづくりを目的として、ホタル類を題材にしました自然教育普及書を刊行し、美幌町周辺の各小中高等学校、北海道内外の博物館・美術館施設・図書館施設、自然教育関連施設等へ無料配布しました。

自然教育普及書

仕様：縦172×横189mm、本文89ページ（表紙・裏表紙除く）、オールカラー印刷、無線綴じ製本、背表紙つき、本文：ユーライト90kg、表紙・裏表紙：ユーライト135kg

内容：国内に生息するヘイケボタル、ゲンジボタル、ヒメボタルの生息地を訪ねた際に撮影したホタルの行動写真や生息環境写真等を、解説文やイラストとともに編集・配置した内容としました。

配布先：美幌町周辺の小中高等学校、北海道内大学研究室、北海道内自然教育・研究関連施設、北海道内外博物館・美術館、北海道内外図書館など計650か所に無料配布しました。

刊行しました教育普及書は、読み手が気軽に写真や文章を通して、ホタルが発する情感を感じてもらえるように、学術的な硬い表現はなるべく避け、ホタルの生態的な特徴や著者の思いや感じた事等は、紀行文的な平易

な文章にして右ページに、写真は左ページに配置して、1つの話題を見開きで読むことができる形式を基本構成としました。内容は、北海道に生息するヘイケボタルの話題を土台としていますが、本州産のヘイケボタルや、北海道には自生していないゲンジボタルや、ヒメボタルについての話題についても取り入れ、ホタルそれぞれの生息環境の特徴や生態の特徴を対比させ合うことで、ホタルが有する生息環境やその暮らしぶりの多様性を感じてもらえ、より深くホタル（昆虫・自然）への興味関心を広げられるように工夫しました。

従来ホタルを題材にした書籍のほとんどが、本州におけるホタルの生息地環境や生態の特徴などを基本にして紹介されており、北海道で見られるホタル（例えばヘイケボタル）が持つ生息環境や生態の面白さ等に触れられていない現状もあるため、本教育普及書の中では、北海道というユニークな地域性を持った地域で暮らすホタルの話題も十分に紹介することで、ホタルを通して、生き物を育てている日本の自然環境の豊かさや、昆虫が持つ生命の不思議さについて、多くの方々に理解を深めてもらうきっかけを提供できたのではないかと思います。



ヘイケボタル (北海道厚岸郡網走町)

北海道で見られるヘイケボタルの生息地は、ヒクマの生息地と重なる
 ことがありますが、撮影時には、方が、一つ、一つ、撮影した後に備え、
 クマの警戒心を受け、ヒクマの生息地には、ヒクマの生息地と重なる
 明けて見出し、ヒクマの生息地には、ヒクマの生息地と重なる
 けています。撮影している場合は、それは撮影して、ヒクマの生息地と重なる
 撮影する時は、かなり撮影が高まります。

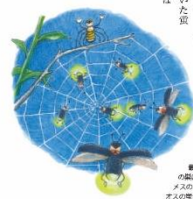
ある日、ヘイケボタルが見られる生息地に一人で撮影に向かいました。
 この場所は最近、ヒクマの目撃報告があったところですが、ヒクマに遭
 遇しないように対策を講じて撮影しているもの、雲が降れ始めて、暗く
 なる、視界が悪くなり、ヒクマへの恐怖感が高まり、撮影が難しくな
 りました。……午後8時を過ぎた頃でした。急に風が吹き、雨が降
 りました。草むらや林の中からは、ヘイケボタルが見れ、目の前を光りなが
 ら飛び交い、まじく光のシャワーを見せられました。それまでの撮影が
 一気に解放、しばらくは心が解放されました……

ヒクマは怖いです……
 やつぱり雲を見たい！



クモの巣の裏に集まってきたヘイケボタル (北海道厚岸郡網走町)
 クモの巣に集まってきたヘイケボタルの光に誘われて、次々と他のヘイケボタルが集まってきました。写真右下にクモの巣が写っています。

「食べ、食べられる……虫をばじめ
 とする自然界の無数の生きものたちは、こ
 の食物連鎖という自然の仕組みの中で生き
 ます。」



蝶類、ユースクワガタが採集されました。オニグモ
 の巣に集まってきたヘイケボタルの光に誘われて、次々と他のヘイケボタルが集まってきました。写真右下にクモの巣が写っています。



クモの巣に集まり、産卵し続けるヘイケボタル
 (北海道厚岸郡網走町)

大ピンチ

「なんだか安全光り方している！」

雨でヘイケボタルが飛び交う周囲
 で、山嵐も起きました。長時間光り続ける
 異様な光景を見ました。よく見ると、
 それはヘイケボタルの成虫がクモの巣
 に捕まり放つて光っていた。クモの巣に捕まっ
 てる成虫は、異常事態に遭ったため、通常の光り方とは異なり、点滅せ
 ずに強く光り続けています。
 大ピンチです。……

なつかしい田んぼの風景

三景山 (長崎県佐賀市)

「田んぼを見てると、ほっとする……」
 昔の深い光に水面がきらめき、夏の暑い日
 差しと涼みながら船がなびき、秋のさびや
 かな空の下で船がなびき重なる……四
 手折々の水田の風景は、どこか懐かし日本人
 心象風景として、記憶に深く刻まれているよ
 うな気がします。最近では、その風景としての
 魅力が水づく体験の場や、三景山(山や
 三景山の自然は、平らな水面を重なり、造られ
 た水田)が注目されるようになってきました。

水田は田んぼだけではなく、さまざまな生きもの
 たちが暮らす場所ともなっています。水田環境を安
 定している水田は、環境とよく似た環境です。
 そのため、昔からヘイケボタルの姿が、あちら
 こちらで見られ、初夏の風習として私たちの
 目を惹きつけてきました。

近年、農業の普及や、種地保護などの影
 響もあり、国内各地の水田で見られていたヘイ
 ケボタルの姿が、急激に減少してきています。



鳴鶴水田 (白川町)

宮野水田 (佐賀県佐賀市)

三景山の水田風景

三景山の水田風景

四季折々の水田風景
 水田は、どこか懐かしさを感ずる風景が感じられる場所です。また、多くの生き物や鳥の生息地でもあります。

